

7月13日。私達1年生にとって初めての巡検の日が訪れた。7月11, 12日と新入生の八王子セミナーがあり、私は少し疲れてはいたが、“巡検”という初めての経験に期待に胸をふくらませて参加した。目的地は横浜。横浜といえば、あの有名な外人墓地、山下公園、中華街等が思い出されるが、今回の巡検はそのような観光地はさておき、国際都市として21世紀へ向かう大都市—横浜—の現実の姿を見ることが目的であった。

午前10時、JR根岸線関内駅に集合。そのまま横浜市役所へ向った。市役所では、「大勢の女の子たちがゾロゾロと何事だろう」という役場の人達の好奇の目を意識しながら、会議室らしき部屋へ案内され、そこで担当の方から横浜市について説明を受けた。特に“みなとみらい21”という開発計画についてはとても詳しいお話を伺うことができた。この“みなとみらい21”というのは、横浜の東京から自立、下火になってきている横浜港の港湾機能の刷新・強化、首都圏の業務機能の分散等を主目的として、横浜駅と桜木町駅間の海沿い、総面積186ha（そのうち76haは埋め立てによるもの）の区域に国際文化都市を建設するという計画のことだ。現在現場は埋め立て作業、区画整理等が行われている段階で、荒涼としたただの工事現場にしかすぎないが、何年後かには少しずつ未来都市の様相を呈してくるだろう。いただいたパンフレットを見てみると、まるでアニメの世界の未来都市、宇宙ステーションのようにカッコイイのである。こういう所でOLになるのも悪くない。が、しかし、よく考えてみると、これが完成する頃には私は30才を過ぎているではなか、ということに気付いてがっかりした。一通りの説明が終わるとアイスコーヒーのもてなしを受け、「さすが横浜。」とサービスの良さに感激。

時刻はそろそろ昼食時。市役所を後にして、私達は食事を兼ねて次の目的地中華街へ喜々として向った。役場の方が予約して下さった中華料理店を探しながら、巡検の本分を忘れず、中華街の様

子を観察しようとキョロキョロして歩いた。中華街は明治期に形成された中国人町で、現在も中国人の商店が立ち並び一種独特な異国情緒を漂わせている。食事はおいしかったが、暑さで気だるかったせいか、みんな黙々と食べていた。時間が予定より大分遅れていたので中華街の見物は省略され、ここは昼食をとっただけで終わってしまった。

次の目的地は関内駅から市営地下鉄で十数分の上大岡にあるスカーフの捺染工場。横浜のスカーフ産業と言えば、横浜に現存する唯一の地場産業である。スカーフが完成するまでの各過程を中小零細企業が分業で行っている。私達が見学した捺染工場も個人経営の小規模なもので大半が手作業だった。案内して下さった経営者のおじいさんは「最近若い労働力が足りない。」と嘆いていらした。このスカーフは全て輸出用。一色一色と重ねられていくうちにすばらし模様が浮かびあがる。横浜にまだこのような手工業が残っていたなんて意外な発見だった。

蒸し暑い工場を後にして再び関内に戻ってきたのはすでに夕刻。今日の巡検の最後を飾る目的地は、“みなとみらい21”の工事現場の共同溝。この共同溝は電気、ガス、水道はもちろん、冷暖房管、廃棄管等をまとめて入れる巨大な地下道みたいである。共同溝の中はひんやりと涼しく、炎天下を1日歩き通した私達にとって天国のようだった。荒涼とした地上の工事現場と地下の共同溝が時代の最先端を行く国際都市へとなるその時、21世紀がやってくるのだなあ、と大きな感動を覚えた。

今日の巡検は、炎天下を歩いてとても疲れたが、横浜の未来、そして横浜の歴史をうかがわせるスカーフ産業と中華街という観光地ではない面の横浜を見ることができてとても満足のいくものだった。

(7月13日 内藤教官指導)